

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成23年 1月 第119号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

謹 賀 新 年

～ケア付きコミュニティへの第一歩～

2025年には団塊の世代の全員が後期高齢期に入り、超高齢化のピークを迎えて行きます。私自身もその一員であり、認知症になっても、要介護5になっても、社会の一員として自由に暮らせる地域社会であって欲しいと願います。

地域社会の中では、老いて人生を締め括る営みと、新たな生命が誕生する営みがつながり重なり合って、次の世代に社会が引継がれていきます。完結する生命と誕生する生命が結び付いて、縁のつながるコミュニティが実現します。

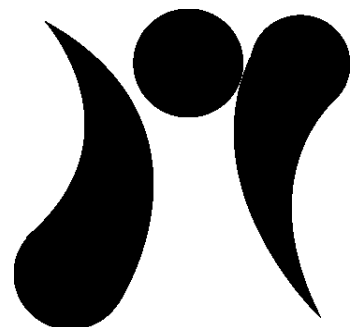
老いた人の生命が完結し人生を締め括る営みには、老いた人にも介護する人にも、老いを肯定し受容する思想が求められます。新たな生命の誕生を迎える人々にも、その神秘的な営みを尊重する思想が必要です。

老いた人の暮らしを支えるケアと、子供の誕生や子育てを支えるケアと、其処には表裏一体の関係性が在り、社会を引継ぐ為の共通する思想が流れているように思います。

高齢者介護の現場で自然の営みとしての老いに向き合うとき、同じく自然の営みとしての新たな生命の誕生と子育てに向き合う思想と力が育まれている事を、心に刻みたいと願います。

新たな年の出発に当り、ケアを必要とする生活を肯定し受容する思想が、ケア付きコミュニティへ踏み出す基礎である事をしっかりと認識しておきたい、と祈念致します。

せいりょう園 渋谷 哲



デイサービスでのお泊りが、制度上に位置づけられそうです。2006年に、デイサービスとショートステイとホームヘルプと、3つのサービスを適宜に組み合わせて生活を支える小規模多機能型居宅介護事業が発足し、その後を追うように、デイサービスでのお泊り事業が制度化に向けて検討されています。

従来、ショートステイについては設備や職員の基準が細かく定められた特養ホームや老健施設で行われるのみでしたが、小規模な宅老所で制度外で実施されてきた宿泊サービスの実績を評価し、ご家族のレスパイトケアを主眼にして、デイサービスの延長での宿泊が制度に位置づけされる方向です。

今までは、デイサービスやショートステイの利用が増えると、家の中にご本人の居場所が無くなり、居宅から離れて施設入所の方が強まっていました。これから地域包括ケアを目指す中で、ご本人の居住の場での生活を支える居宅介護サービスを提供し続ける事が大切ですが、介護する家族の休息を重要視して制度化するデイサービスでのお泊り事業が、ご本人の居住の場を安定させる役割を果たせるのか、深く議論する必要があるように思います。同居するご家族の都合に合わせた利用が、今まで以上に優先される事を懸念します。

そして一方で、ホームヘルパーが昼食を調理すると2000円のランチになるが、弁当を配達すれば300円～500円で足るので、ヘルパーによる調理を再考すべき、という提案があります。生活を支える介護業務の中で、食物を調達し栄養補給ができれば、調理作業は不要であるように聞こえますが、生活の場での調理は本当に不要なのでしょうか？

老いて要介護になり、様々な生活行為が出来なくなっていく中でも、人は生きている事を実感する瞬間を積み重ねて、生活にチャレンジしています。自分が創った生活空間の主人公として、生きることにチャレンジし続けて、尊厳を保ちながら人生を締め括ります。

生活の主人公としての在りようを探りながら生活空間を創るとき、調理作業に付随して起こる音や匂いや雰囲気の変化が、生の実感に最も大きく影響する瞬間だと気付きます。掃除や洗濯や入浴などに付随して起こる生活感よりも、食べることに直結する感性と感覚は、鋭く多彩です。そして其れは、遺伝子が伝える命の限界を悟る感覚でもあります。

例え食べることが出来なくなっても、生きている事を実感する場面を調理作業が創りだし、生きることにチャレンジする暮らしを、その限界まで支え続けます。2000円のランチは不要ではありません。

ご本人が主役である生活を支えるとき、どのような場面が生を実感する瞬間なのか、その場面を多様に経験する為に使い勝手の良い介護サービスとは何なのか、等について様々な視点から観察し議論する事が大切な事を、今一度此处で確認し、居宅での生活を継続する為に役立つデイサービスやショートステイやホームヘルプの業務内容を工夫し模索して行きたい、と考えています。

多くの認知症の人が、不確実となってくる自らの生活機能に不安を抱き混乱しながらも、生活経験の中で培ってきた感性や感覚を働かせて何とか折り合いをつけて感情をコントロールし、其れなりに居場所を探して暮らしています。社会が許容し他者が容認する範囲の混乱に収める生活力と社会性を、見事に発揮しています。

その不安や混乱を取り除こうと、機能の活性化を目指して個別に積極的に働き掛けるデイケアやデイサービス、或いは薬剤の投与が、優先して行われています。短期的には活性化した様子が見え、有効に映りますが、長期的にはもっと悪化して、効果が見えなくなり、其れを何度も繰り返す中で、介護者が疲労していきます。社会の許容範囲が広がらずに固定化していきます。

そして何より、ご本人が自らの不安感と折り合いをつけてきた感性や感覚が鈍り、生活力や社会性を発揮できず、やがては、その力を喪失する結果を生んでいます。そして其処には、感情をコントロールできずに混乱するしかないご本人が残され、その混乱する認知症の人の居場所は、家庭にも地域にも用意されません。

デイサービスやショートステイの利用が、居宅を離れる切っ掛けとなる事例を数多く経験してきました。ご家族の都合で家の中にご本人の居場所がなくなる場合の他に、自分の居場所を探るご本人の生活感覚が衰えて、ご家族や隣人の許容範囲を超えて混乱してしまう結果を、数多く見てきました。

例え認知症になっても、地域社会の一員として自らの居宅で住み続ける為に役立つ介護サービスでありたい、と願います。デイサービスでも、ショートステイでも、小規模多機能居宅介護でも、そしてホームヘルパーの業務においても、調理の作業を生活の中心に置き、認知症の人が自らの不安感と何とか折り合いをつけられる生活感覚を失わぬように、生活上の感性や感覚が働き易い生活空間を整える事に専心し、介護の原点に戻って新たな取り組みを始めたい、と考えています。

特養ホームとグループホームにおいても、自己完結型のお任せ介護に陥らぬように心掛けて、ご家族や地域の人と協働して社会の許容範囲を広げる努力を積み重ね、認知症の人が何処で暮らしても管理されること無く、社会の一員として尊重される地域社会を目指します。

介護についてみんなで語ろう会

テーマ「せいりょう園の暮らし」 12月17日(金)

せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

老人ホームの暮らしについて皆さんはどのようなイメージを持たれていますか。

入所申し込みの相談を受ける際にはお部屋の見学をしていただいています。皆さん病院のような4人部屋をイメージされていたようで、イメージと違うという感想を言われることがあります。昔は病院と同じように4人部屋の施設がほとんどでしたが、個室の老人ホームが増えてきています。せいりょう園でも定員50名のうち30名はユニット型の個室のお部屋になっています。残りの20名も2人部屋になっており、部屋の真ん中には間仕切りの壁を通し入口にカーテンを付け、閉めていただくと個室に近いようなプライベートな空間を作ることが出来ます。4人部屋を2人部屋にしているので、想像以上にお部屋が広い、という感想や、開放的で明るいという感想をいただいています。

お部屋だけのことでなく、そもそも老人ホームで暮らす方がどのような生活を送っているのか、まだまだ理解されていないことが多いのではないかと思います。今回は以前にせいりょう園で暮らす利用者の生活の様子を映した「せいりょう園の暮らし」というDVDを観ていただきました。

DVDの内容

- ・ユニット型特別養護老人ホーム、グループホームでの生活の様子。約10人を1ユニットとし小人数で生活していただくことで、より利用者を個別に介護することが出来るようになっていきます。
- ・お部屋は個室になっており、自宅で使い慣れた家具や本人の趣味趣向に合った物を持ってきていただき自宅での生活の雰囲気を出していただいています。
- ・各フロアには台所があり、利用者の目の前で調理するので自宅と同じように食事時の雰囲気を作ることが出来ています。
- ・利用者の方が外出され散歩している姿。認知症の症状があったとしても思いを巡らせながら外出されています。
- ・タオルをたたんでいる所や食器の洗い物をしていただいている姿。出来る方にはお手伝いをいただいています。



感想

日本で亡くなる方の8割は病院で亡くなっています。残りの2割は自宅か老人ホームのような施設で亡くなっているそうです。3年前、私はデンマークに研修へ行かせてもらいました。そこでは、8割の方が自宅で亡くなり2割の方が病院で亡くなるという、日本とはまったく逆である事実には驚きました。しかし、良く話を聞いてみると、自宅で亡くなっている8割の方というのは、老人ホームのような施設に入所されている方も含まれているのです。つまり、デンマークの老人ホームなどの入所施設の考え方は、「施設」ではなく「自宅」という捉え方なのです。

デンマークの老人ホームを見学したのですが、すべて個室になっていました。お部屋は自分の好きな家具や電化製品などがあり、ワンルームの一人暮らしのような印象でした。施設の形態も様々で大勢で入所する施設もあれば、一戸建てに住む施設もありました。一戸建ての建物がたくさん並んでいるような形で、施設というより普通の家のようなでした。少し歩けば民家もあり、どこからが施設なのかという仕切りが特になかったように思います。施設が自宅であることも領けます。

日本の老人ホームでもユニット型の個室の特養が増えています。老人ホームという施設ですが、本人のお部屋が自分の家であり、その自宅に職員が訪問させていただくという風にも考えることが出来るのではないのでしょうか。そういう意味では、デンマークの「自宅」という考え方に近づきつつあるのかもしれませんが、いざ施設と地域と自宅の仕切りが無くなり、一人暮らしとなんら変わらない状況になった時に家族や地域の方はどのように感じるのか。個室になりプライベートな空間が確保され人間として尊重される生活をすればするほど、その方自身に引き受けていただくリスクが生活の中にあるということになります。それを地域や家族が本人のリスクとして受け入れることが出来るのかどうか。本人が生活者としてチャレンジしていることを応援できるかどうか。去年1年間で受けた老人ホームの入所申し込みは141件になります。その内、個室に近いお部屋では死角が多く、安心と安全を求める家族の声が実際に多くあります。

施設と自宅の仕切りを取り除く為には、私たちの老人ホームに対する考え方や老人ホームの役割を改めていくことが必要ではないかと感じています。

次回の語ろう会？

- 1月 テーマ「胃ろうをよく知ろう」
- 2月 テーマ「排泄について」



ケアハウス等空き情報 <平成23年 1月17日現在>

《ケアハウス》

・青山苑	: 1人部屋2室	・ケアハウス恵泉	: 1人部屋若干
	: 2人部屋2室		: 2人部屋若干
・ケアハウスアゼリア	: 1人部屋7室	・第二ケアハウス恵泉	: 若干
	: 2人部屋2室	・サリットひまわり園	: 2人部屋1室
・ウェルビング はりま	: 1人部屋2室	・サライ御立	: 1人部屋1室
・シスナブ御津	: 1人部屋2室	・あさなぎ	: 2人部屋1室

<バリアフリーマンション> リバティかこがわ 2室

[問合せ先]せいりょう園介護相談室 Tel(079)421-7156/(079)424-3433

せいりょう園 毎週の行事

月曜日	のびのびルーム (自彊術)
火曜日	のびのびルーム (映画会)
水曜日	のびのびルーム (カラオケ)
	音楽療法
	自彊術療法
木曜日	のびのびルーム (自彊術)
金曜日	ピア/教室
	陶芸教室 造形教室
第2火曜日	折り紙教室
第1・3火曜日	書道教室
第2・4水曜日	お話グループ・福寿草の会

せいりょう園 2月の行事予定

2月 3日(木)	節分
2月 7日(月)	仏教講話
	共生の会
2月12日(土)	園長との懇談
2月14日(月)	バレンタインデー
2月16日(水)	美容の日
	昼食会
2月18日(金)	美容の日
2月25日(金)	郷土料理
	介護について語ろう会
	~排泄について~
2月28日(月)	理容の日

せいりょう園 待機者状況

<平成23年 1月13日現在>

○入所判定済み者 387名

グループの内訳

Iグループ…131名/IIGグループ…151名/IIIGグループ…94名

○入所判定済み者の現在状況

在宅143名/特別養護老人ホーム入所中13名/医療機関入院中115名

老人保健施設入所中81名/ケアハウス入居中5名/グループホーム入居中14名/不明5名

辞退その他

他施設入所4名/死去7名

せいりょう園の行事



12月24日
クリスマス会



ボランティアさんによるサックス演奏



12月27日 餅つき



1月14日 初詣



1月8日 おんぎく 音曲漫才「おしどり」



お正月飾り



おせち



職員より今年の抱負

- ・勉強する
- ・腰痛予防する
- ・元気に働き、楽しく暮らす
- ・大きくジャンプしたい
- ・めざせ減量！！
- ・ピラティス続ける
- ・仕事ひとすじ（体の続く限り）
- ・いっぱい笑って過ごしたい
- ・誰にでも笑顔で接する
- ・毎日平凡で過ごしたいなあ
- ・一人暮らしがしたい！
- ・おいしい料理を作る
- ・素直な大人になる
- ・今を楽しむ
- ・充実した1年を送る
- ・1つでも趣味を増やしたい
- ・何事も一生懸命に取り組む
- ・貯金に励む
- ・マメになりたい
- ・健康維持に努めます
- ・今年こそケアマネ合格するぞ！
- ・自分の充電期間に入った
- ・身体あつての仕事なので健康に注意する
- ・健康でおれるようにしっかり体調管理する
- ・両親が健康であるように願っている
- ・気付きが必要だと改めて解った
- ・事故やケガのない1年が送れますように
- ・無理のないように前向きでがんばる
- ・細やかな所に気を配れるように努力します
- ・今年は資格取得のため、勉強します
- ・いろんな事に対して前向きに進んでいく
- ・健康に過ごして1日でも長く仕事を続けたい
- ・毎年言っているが、整理整頓する
- ・新規の利用者さん（スタッフも）増やしたい
- ・今年は婚活するぞ！（自分、子ども）
- ・身体に気をつけて、血糖値を下げたい
- ・病気をしないように気をつける
- ・自分の健康増進のためにがんばる
- ・グチを言わないように気をつける
- ・もっとプロらしい仕事がしたい
- ・家族、職員、利用者皆が健康でありますように！
- ・家族、職員、利用者皆が笑顔で暮らせますように！
- ・ピョンピョン跳びはねる（うさぎ年の女性より）
- ・皆の力が発揮出来る、皆で力を合わせる1年に！
- ・段取り良い仕事出来るように心がけていきたい
- ・時間を大切に、いろんな事にチャレンジしたい
- ・仕事以外でも身体を動かして、キビキビ動けるようにする
- ・ケアマネジャーの試験勉強をする時間を作ってがんばりたい
- ・優先順位をよく考えて、手早く仕事ができるようになる
- ・努力だけではどうにもならない事を知った。今年は別の視点で物事をみつめていきたい



圧倒的に自分の健康に関することが多く、いい仕事をする為には自分自身が心身共に健康であることが重要だと考えている人が多いということが分かりました。

また、前向きで自分の研鑽に励む人の思いも聴けました。

今年も元気でいきましょう